

# 「音更町のまちづくりに対する意見等」

《総合計画に関する参考資料》

音 更 町

令和2年2月作成

## 音更町のまちづくりに対する意見等

町民ワークショップ、職員ワークショップ及び町民アンケートでのまちづくりに対する意見等は以下のとおり。

### 【下記表記の説明】

四角の枠内：当該区分のポイント

●：町民ワークショップ・職員ワークショップからの意見

■：町民アンケートからの意見

### 1 経済・産業・雇用（働き方）

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 農家戸数の減少・後継者不足の解消に向けた「担い手」の確保</li><li>● 企業誘致・起業支援など雇用の確保と企業等の求める人材の育成・確保</li><li>● 多様な働き方ニーズに応える就労形態・機会の創出と勤労者の保護</li><li>● 十勝川温泉など観光資源の有効活用による観光振興</li><li>● 地元特産品のブランド化やPR、観光資源化などの産業連携・経済の活性化 など</li></ul> |
|--|

- 農家戸数の減少、後継者不足等、農業の継続が課題。
- 食品加工、販売が可能な工場をつくり、働く場所を確保する。
- 農業の価値を生かしきれていない。
- 外国人材を確保していく。
- 高齢者の働ける場所をつくる。
- 高校生、短大生と企業のマッチングにインターンシップを活用。
- 福祉、建設など人材不足業種での人材確保が課題。
- 働き方改革としてサテライトオフィスの検討。
- 人材バンクの充実。
- 移住政策の充実による農業の継続。
- 農業のことをよく知らない。町民が誇らしく語れるようにしたい。
- 工場見学による特産品のPR。
- 農村地域に光回線が必要。
- IoTやAI使った農業によって人材不足を補う。
- 農作業のロボット化の先進地にしたい。
- 小規模農業経営の確立による農業経営の多様化と産業としての農業基盤の強化。
- 農業起源の廃棄物の適正処理とクリーン農業の推進。
- 地域の商業の活性化。
- 地元商店街を生かす。
- 地産地消を推進すべき。
- 企業誘致によるAI、IoTの導入に向けた研究開発の促進。
- 音更町は経済的にも地理的にも恵まれ、危機感を感じられず、現状維持でよいのではないかという雰囲気がある。

- IC業団地への企業誘致。
  - 税制優遇による企業誘致。
  - 活気とにぎわいのためには、人口の維持・増加、周りから集客できるようなまちづくりが必要で、雇用が重要となる。
  - 地元の風土や環境を生かした一次産業をどのように伸ばしていくか。
  - 大型の工場や施設を伴う企業誘致を行うなど、雇用の場を確保する。
  - 十勝川温泉の入浴、宿泊の地元利用を促進する。
  - 新しい食・製品・特産品の開発。
  - 飲食店、カフェが少ない。
  - 十勝川温泉で会議を開く等の使い方の検討。
  - インバウンドも重要だが、国際情勢などの影響によって外国人観光客は減少してしまう。
  - 町民一人ひとりが広告塔になり、まちの魅力を発信してもらえるような体験メニューがほしい。
  - エコロジーパークと十勝川温泉のつながりがほしい。
  - 十勝川温泉に音更という名前をつけられないか。
  - 十勝川温泉の観光資源としての活用方法の検討。
  - ガーデンスパの利活用方法の検討。
  - 農業も温泉も特化しているがPR不足。
  - 食堂、ホテル、道の駅等での地元食材のPR強化。
  - 地元の特産品を使用したレストラン（カフェなど）の創設。
  - 農産物のブランド化の促進。
  - 十勝を代表するような道の駅にしてもらいたい。
  - 道の駅に子どもの遊べるスペース（公園等）を作る。
  - 新たな道の駅では、音更産農産物のバーベキューができるなど、体験型の視点を取り入れてはどうか。
  - メロディーラインの活用による道の駅同士（ガーデンスパと新しい道の駅）の交流の動きの創出。
  - 温泉街だけでもっと楽しめるような場になってほしい。
  - 音更町ならではの集客を図れるようなものが欲しい。
  - 観光、農業、産業など異業種間の橋渡しとなる施策の実施。
  - 若い人や女性が働きやすく、子育てしやすい環境づくり。
  - 女性が育児後に職場に復帰できる環境が必要。
  - 福祉関連職の定着率の向上、職場環境の改善。
- 農業振興（後継者育成、就農援助）
  - 6次産業化
  - 特産品のPR強化
  - 雇用の場の確保・拡大、起業支援

## ■ 十勝川温泉の活性化

### 2 自然環境と生活の基盤

- ・ 災害に強いまちづくり
- ・ 再生可能エネルギーの利活用
- ・ 公共交通の利便性向上
- ・ 安全で快適な道路環境の整備
- ・ 空き家対策と遊休施設の活用
- ・ 生活環境・観光資源としての景観整備
- ・ 環境保全と循環型社会の構築 など

- バイオマスの活用方法を町として考えてほしい。
- 循環型のエネルギーをつくっていく。
- 蓄電装置の開発によって再生可能エネルギーの有効利用が期待される。
- 景観を大切にしていくことが重要。
- ゼロエネルギー住宅の促進を図る。
- クリーンエネルギー（太陽、風力、バイオマス、地熱、水力など）を活用した電気の供給を推進していく。
- 十勝川温泉までに至る道は、観光客の目にもつくので、特に配慮が必要。
- むつみ公園の銀杏並木は美しく誇るべき。保全が必要。
- ごみを拾わなくても良いまちづくりが必要。
- ごみのポイ捨て、不法投棄対策の徹底。ごみを拾わなくてもいい町にする。
- 食品、衣料品の積極的活用によるロスの軽減を図っていく。
- 自動運転化を見据えた今後10年間の公共交通の予算が見えてくるとよい。
- バスに替わる交通手段としてタクシーを活用し、タクシー券による利用促進をしてはどうか。
- コミュニティバスの増便、ルートの見直し。
- 渋滞の円滑化を図るため、時間帯によってバス専用レーンを設定してはどうか。
- バスを待つ時間で過ごすサロンや空き家を活用した集会所が欲しい。
- 音更高校と大谷短大を円滑につなぐ交通整備やバス配置の在り方の検討。
- バスの活用等による免許返納者への対応の検討。
- 高齢者のバスの無料化や助成の検討。
- 災害に強いまちづくりが必要。
- 災害対策（避難、避難所運営、減災対策など）の徹底。
- 防災無線の受信機の戸別配付が必要。
- コミュニティ放送局を設置し、防災情報や地域に密着した情報の共有化をはかる。
- 避難所情報の周知方法の工夫が必要。
- 避難所のバリアフリー化が必要。
- 洪水保険への補助、防災ラジオの配布、発電機への補助、蓄電池の整備など。

- タクシー会社と防災協定を結んではどうか。
  - SNSを活用した防災情報の発信。
  - 住民の避難意識の向上を図る。
  - 防犯対策（街灯、防犯カメラ、パトロール、地域のつながり）の強化。
  - 免許返納者への優遇措置の検討。
  - 宝来に橋を建設すると人が入ってくるのではないか。
  - 除排雪をしっかりと行ってほしい。
  - 河川の氾濫防止策・洪水対策を引き続き進めてほしい。
  - 橋の集約化。
  - 屋外の遊び場の確保。
  - 利用される公園化。公園のあり様について抜本的に見直しては。
  - 移住、定住につながる住環境整備（まちづくり）。
  - 木育などの観点から、エコロジーパークに音更の木材を使った施設を整備してはどうか。
  - 樹木の計画的な伐採（植樹、育樹を含む）により、資源を後世に残していく。
  - フードリサイクルプロジェクト等の食育を強化していく。
  - 遊びの拠点として子ども達を楽しめる施設を一つに集約し、それ以外はコミュニティスペースとして整備する等、公園の用途を二極化してはどうか。
  - 川をイメージした公園づくり。
  - 共同墓地が欲しい。
  - 本町と木野の間や鈴蘭小学校の西側の宅地造成により、人口増加につなげたい。
  - 市街化調整区域の開進地区に住宅が建てられるようになり、今後も施策を継続してほしい。
  - 空き家が多い。
  - 親の家を壊すにもお金がかかり空き家になってしまう。
  - 空き家を町が買い取り、各地区のコミュニティスペースとして活用してほしい。
  - 移住希望者の試し住まいとして教員住宅の空き家を活用してはどうか。
  - 空き家の流動性を高めるべき。
  - インフラを小さくまとめて整備し、コンパクトシティ化をはかっていく。
  - 地籍調査の継続が必要。
- 災害対策強化（避難所の設置、河川の氾濫対策）
  - 路線バス・コミュニティバスの充実
  - 道路整備、渋滞緩和対策、除排雪の徹底
  - ごみのポイ捨て対策
  - 公園遊具の充実
  - 空き家や空き地の有効利用
  - 子育て世代向けの住宅環境整備
  - 木野地区以外の買い物対策

### 3 教育・学習・文化

- ・高齢者と若者、子どものふれあいの「場」づくり
- ・地域で人を育てる環境の整備
- ・人を呼び込む人づくり教育の全町的取組
- ・まちづくりの核としての教育・学校
- ・伝統文化の維持、伝承と芸術文化活動の推進
- ・多様な世代が親しむことのできる、スポーツ環境の整備 など

- 地域と関わりのある教育の検討。
- 道徳の授業などに音更町で活躍する人物を取り上げてはどうか。
- 高校卒業後の選択肢が欲しい（進学先等）。
- 音更高校の特色ある教育の実施と知名度アップ。
- 大学の誘致。
- 短大の近くにカフェなどをつくり、若者が住みたくなるような町にする。
- ふるさと介護福祉士育成支援事業を活用した短大の授業料等の免除要件について、就職先が町内と十勝管内の他市町村とで内容に差を設けてはどうか。
- 教育環境の整備が必要。
- 食育、木育の実施。
- 通学時の安全確保が必要。
- 小学生の放課後の居場所づくりが必要。
- 魅力のある人たちをつなげていく仕組みづくり。
- 人材育成ビジョンが必要。
- 人をつなげ、若い人たちが自己実現をする機会が必要。
- 高齢者と子どもたちのふれあいの場所づくりが重要。
- 高齢者と子どもの交流を図るための高齢者施設と保育施設の併設。
- 地域で育てる環境の整備が必要。
- 高齢者と子どもの交流の促進。
- 子どもたちが休みの日等に集まれる場所、施設の充実。
- 子どもが安全に遊べる場所が必要。
- 文化の伝承が重要。
- 地域会館などに老人会と子どもが活用できる部屋の設置を検討。
- 郷土愛の醸成のため、音更町の歴史教育が必要。
- 郷土資料室を使って高齢者がボランティアで子どもたちに歴史を伝えてはどうか。
- 今いる子どもたちが「音更に住んでよかった」と思えるまちづくり。
- 職業体験の実施。
- 弱者を一人も出さない音更町独自のSDGs教育をしていく。
- スポーツ施設の充実。
- 子育て・教育人材の育成・確保。

- 10年後までにオリンピックを出したい。
  - 音更町発祥の独自スポーツの開発。
  - 施設の料金がネック。
  - 運動場の復旧が必要。
  - 博物館が必要。
  - 伝統行事を残し、音更への郷土愛を育みたい。
  - 伝統文化の維持、人づくりが必要。
  - お昼のサイレンの代わりに音更音頭を流してはどうか。
  - 音更を音楽の町としてPR。
  - 音更町ゆかりの作曲家伊福部昭先生のつながりから、様々なアプローチを検討。
  - 音更高校の管弦楽局がきっかけとなり、短大、幼稚園等と交流が進めばいい。
- 教員の質の向上
  - 芸術文化活動の推進

#### 4 健康と福祉

- ・子育てがしやすい環境の整備
- ・町内における医療機能の拡充
- ・健康づくり（病気の予防や体力づくり、健診・検診の充実など）
- ・コミュニティによる見守り
- ・総合的な生活困窮者支援
- ・高齢者が活躍できる環境づくり
- ・消費者の保護 など

- 緊急対応可能な町立病院が欲しい。
- 専門病院の不足。病院を誘致してほしい。
- 産婦人科が必要。
- 町独自の医療費助成を行う。
- かかりつけ医（ホームドクター制度）の普及促進。
- 乳がん健診を30歳から実施してほしい。
- 介護認定制度の理解を深める機会を増やす。
- 介護前に相談できる場所・体制の確立。
- 介護支援者の募集をサポートする仕組みが必要。
- 健康寿命を延ばすための仕組みづくりが必要。
- ラジオ体操の継続。
- 歩こう会やパークゴルフ活動への「おとふけ生きいきポイント」の付与の検討。
- 町から万歩計の支給をしてはどうか。
- パークゴルフ場の無料化。

- 医療費を高校生まで無償にしてほしい。少なくとも、小学生までは無償化できないか。
  - 予防接種代を無料にしてほしい。
  - 医療体制の整備や介護・障がい者施設等の更なる建設が必要。
  - 高齢者が安心して暮らせる町にしたい。
  - 高齢者の雇用の場が必要。
  - 高齢者の活躍の場をつくる。
  - 介護タクシーの割引、無料化をしてほしい。
  - 若い人を巻き込んだ介護対策が必要。
  - 高齢者同士の助け合いを促していく。
  - 障がい者の要支援ニーズと所在の確認、支援内容の充実、就労支援、自立支援。
  - 貧困世帯、要保護世帯のエンパワーメントを高める。
  - 高齢単身世帯の増加に伴う総合的施策を検討する。
  - パソコン・スマホ教室を開催し、コミュニケーションツールを活用した交流機会を創出してはどうか。
  - 公園等でサロンを開催してはどうか。
  - 十勝川温泉までいけない高齢者に配湯してはどうか。
  - 健康ポイント制度の拡充。
  - 詐欺被害が出ない環境づくりを引き続きお願いしたい。
  - 消費者被害がゼロの町にしてほしい。
- 健康づくり（病気の予防、高齢者の体力づくり、介護予防施策、情報提供）
  - 予防接種の助成、健診（検診）の充実
  - 医療機関の充実（高度医療、専門科の配置）
  - 高齢者の自立支援（高齢者施設・在宅支援の強化、就職支援）
  - 障がい者（児）支援（療育施設の増加、専門家の育成）

## 5 行財政運営・コミュニティ・協働等

- ・ 町民が集えるコミュニティスペースの確保
- ・ 町内会機能の充実と町民参加の促進
- ・ 広報紙、ホームページ、SNSによる効果的な情報の発信・共有
- ・ 協働・連携による住民主体の多様なまちづくりの支援・促進
- ・ 効率的、効果的行政運営と広域連携 など

- まちづくりに生かす方針について専門家の意見を聞きたい。
- 町内会同士の絆づくりが重要。
- 防災体制の充実が求められているにも関わらず、町内会活動などのコミュニティ活動への意識が低い。
- 「向こう三軒両隣のつながり」を音更町の合い言葉にしてはどうか。



- 町内会、老人会を行政でサポートする体制が必要。
  - 町民が集える場所がない。
  - 空き家を高齢者の居場所やコミュニティ促進の場に活用することの検討。
  - 閉校した校舎を地域コミュニティや、起業の場等に活用することの検討。
  - 既存の集客施設は点在し、用途のPR不足。
  - 新しく施設を建てるだけでなく、既存にあるものも両方生かしたまちづくりはできないか。
  - 複合型施設の創設。
  - 農村部と都市部の融合、相互理解。
  - 地域が一体となるイベントの開催が必要。
  - 町民、地元企業、行政が一体となって話し合うことが重要。
  - ワークショップに小中高生も参加してもらう。
  - 音更町の広報は工夫が必要。
  - 町のホームページを見やすくする工夫が必要。
  - 町外の方でもアクセスしやすいHPでまちのPRにつなげる。
  - 世代を問わない情報発信手段の充実を図っていく。
  - 音更の魅力発信プラットフォームをつくる。
  - 音更町の宣伝がうまくできていない。
  - 行事・イベントが中途半端でポイントが見えない。
  - 道外では、音更町はほとんど知られていない。
  - まちが有する豊かな資源の価値に気が付かない。
  - 音更のブランド力向上には、町民一人ひとりが広報パーソンという意識を持てるよう、地元愛を育む教育が必要。
  - 若い世帯が移り住める町にしていくべき。
  - 道外にも住みやすさをPRすべき。
  - 農村地域や市街地などの特性を生かしたまちづくりはできないか。
  - 他自治体との情報共有。
  - 観光客が地元とふれあうことができる場所として、十勝川温泉を活用してはどうか。
  - コミュニティの充実につながる設備は無料で活用したい。
- 町内会活動の促進（加入率の向上、活動支援）
  - 町民参加の促進